

社会技術研究開発事業
平成22年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」

研究開発プロジェクト名

「演劇WSをコアとした地域防犯ネットワーク構築プロジェクト」

平田オリザ
(大阪大学 教授)

1. 研究開発プロジェクト名

演劇WSをコアとした地域防犯ネットワーク構築プロジェクト

2. 研究開発実施の要約

○研究開発目標

演劇ワークショップ(以下、演劇WS)の手法を用い、防犯啓発劇を子どもたちが自ら作り、発表までを行うプログラムを研究開発する。防犯教育を演劇WSで行う大きな意義は、座学による学習で「頭で理解する」のにとどまらない、「主体的に学習に参加し、頭と五感で体感する」ことである。防犯をテーマとした台本づくりをする事により、「自分だったらどうする?」「自分の通学時はどうだろう?」という、防犯への意識・知識のレベルを向上する事ができ、劇の練習と発表を通じて、疑似体験とその記憶の定着を目指す。さらに、創作したお芝居の発表を通じて、地域への防犯啓発を行い、地域防犯の意識向上が図られるという二次的な効果にもつなげていきたいと考えている。

○実施項目/主な結果

「WSコンテンツ開発・研究グループ」

- ・ 演劇ワークショップコンテンツ作成、社会実験実施/映像支援ツール作成/ウェブコンテンツ作成

岡山、北九州にて社会実験を実施し、京都(立命館小)では、ウェブコンテンツの連動もスタートした。

「防犯CT育成グループ」

- ・ CT人材育成/防犯WS実施

40名程の受講生を対象に育成プログラムを実施。

「社会実験・評価グループ」

- ・ 効果測定モデル作成/社会実験にてアンケート調査実施

効果測定のための、防犯演劇ワークショップによる教育効果の概念モデルを作成/京都の社会実験にて、概念モデルを元に設計したアンケート調査実施。

「政策化・実装グループ」

- ・ 市町村議会議員、行政関係者、市民、PTAへヒアリング、意見交換を実施

「WEBコンテンツ開発グループ」

ワークショップ支援 映像ツールを作成、社会実験(立命館小)にて使用した。

facebookを利用した、webコンテンツを開発、研究。

社会実験と連動させて、WSを受講した子どもと保護者への公開を実施した。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

22年度は、既にコンテンツとして開発した低学年を対象とした「リアル犯罪向け演劇WS」を軸に、①調査研究 ②WSと連動した映像コンテンツ、webコンテンツ作成 ③WSを実施するCT育成。をメインに開発する。

また、本プロジェクトを通じて実践的に研究された内容を、公共政策ならびに企業政策に反映させるべく、より具体的な事業レベルから施策レベルへ、さらには施策レベルから政策レベルへと、抽象化を図ることを主要な課題とする。

「犯罪からの子どもの安全」という具体的な政策理念に対し、演劇WSを通じて、地域防犯コミュニティを形成するという政策課題に対し、研究フィールドからの政策的示唆についての認識を深め、さらには他地域ならびに他主体による実践のための問題を探索することが、本グループの目的である。

①調査研究では、演劇ワークショップの子どもの防犯力向上の効果、地域防犯への影響を調査する前段階の効果測定のための、防犯演劇ワークショップによる教育効果の概念モデルを作成し、概念モデルを元に設計したアンケート調査実施する。

②演劇WSと連動したWebコンテンツ(演劇WS支援ツール、e-ラーニング教材、連絡ツールの3つのコンテンツ群)は、演劇WSとWebコンテンツを組み合わせることにより、一過性のWS企画では無く、継続性、広域性を備えたインフラのプログラムを目指す。

学校現場等での使用については、映像の中の俳優と生で出演する俳優が絡んで物語が進行するような内容になり、実施コストの軽減に資することになる。

また、学校等用の教材と共通のキャラクターが登場する家庭学習教材も、開発する。これにより、学校現場での指導と連動した家庭学習が行える上に、家庭で学校における取り組みを理解する手助けにもなる。全国での実施事例の報告、紹介ができるような、ウェブログなども併設を検討する。

③CT育成には、こまばアゴラ劇場を拠点としてこれまでに培われてきた知見を応用し、防犯演劇ワークショップ(以下、防犯演劇WS)の計画・実施を担うことができるコミュニケーションティーチャー(演劇WSのリーダー、ファシリテーターを担える職能。以下CTと表記)の育成に取りかかる。

同時に、防犯学的な専門的知見を有する安全インストラクターとの協働により、学校や地域などの実情に合わせた防犯演劇WSを開発・実践し、それらの効果を検証する。

(2) 実施方法・実施内容

「リアル犯罪向け演劇WS」コンテンツ開発&社会実験

1) 「みんなであんぜん! 防犯コミュニケーションワークショップ」

「安全パワーアップセミナー」をベースに、より演劇的な単発演劇防犯ワークショップを開発し、社会実験を行った。

「予防」「コミュニケーション」をテーマに、CTと防犯のプロ武田信彦氏とで、コミュニケーションゲームの要素が高いプログラムを開発、実施した。

■日時：2010年9月23日(13:00~14:30)

■会場：枝光本町商店街 アイアンシアター

■参加者数：30名(地域に住む小学生)

2) 「演劇で学ぼう！防犯編 暴犯団から身を守れ！in岡山」

21年度より開発している、プロの俳優と、子どもたちが、防犯をテーマに、ワークショップ形式で、共同でお芝居を創作し、成果発表会を行う、防犯演劇ワークショップを、岡山市吉備小学校学童保育にて実施。発表会を、小学校体育館にて市民向けに実施した。

日時：2010年12月27日、28日／2011年1月22日、23日

会場：岡山市立吉備小学校

ワークショップ参加者：15名／発表会来場者 70名

協力：吉備おひさまクラブ／劇団衛星／うさぎママのパトロール教室
岡山市学童保育連絡協議会

後援：岡山市教育委員会／岡山市

3) 立命館小学校低学年向け社会実験

本プロジェクトの軸となる、立命館小学校低学年向けの「つれさり」をテーマとする防犯演劇ワークショップの開発、実施を行った。22年度は、ウェブコンテンツとの連動に重点を置き、映像コンテンツを作成し、実際のワークショップで使用した。また、ソーシャルネットワークサービスサイト「facebook」を利用して、保護者への公開を行い、ワークショップの様子をwebを通じて参観してもらった。

日時：2011年1月21日、2月4日、7日、17日、28日、3月7日

会場：立命館小学校

ワークショップ参加者：1年生4クラス（122名）

映像支援ツール／webコンテンツ制作

上記、立命館小学校での演劇ワークショップの支援ツールとなる、映像を制作し、映像を使用した演劇ワークショップコンテンツの研究開発、実施を行った。

■ 映像支援コンテンツ

- ・ 講師によるデモンストレーションの際に使用する、「暴犯団オープニング」映像
- ・ ワorkshop発表会にて使用する「暴犯団エンディング」映像
- ・ 防犯トレーニング映像「防犯くん」

武田信彦氏監修による、「身を守るコツ」をテーマにした、映像教材を作成。

23年度社会実験、webコンテンツと連動予定。

■ facebookアプリ開発／立命館小学校保護者向けの説明書作成（別途添付）

演劇WSとWebコンテンツを組み合わせることによる、「継続性」、「広域性」を備えたインフラ的プログラムを目指し、22年度は、既存のサービスによる試験運用を行った。

小学校で行われるワークショップの様子を、動画カメラにて30秒～2分程度のスナップ映像を撮影しソーシャルネットワークサービスサイト「facebook」にアップ。

自宅でのふりかえりや親子のコミュニケーションツールとして利用してもらう事を目的とし、保護者限定で公開した。



調査／研究に関する、測定する概念についてのモデルを作成（別途添付）

以下、三項目で得た知見から、測定する概念についてのモデル（概念図）を作成した。先行文献や先行する研究者へのヒアリングおよび、アンケートの自由意見による概念整理、さらにはコミュニケーションティーチャーへのヒアリング結果をもとに、概念モデルを作成するとともに、測定可能な概念のうち、測定すべき項目を選定した。

・先行研究の収集および研究者へのヒアリング

「防犯行動・能力」「子どもの犯罪被害」等についての先行研を検索し、知見を確認した。また、先行する研究開発プロジェクトである、「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」の評価測定チームである、大阪教育大学の藤田大輔氏、および兵庫教育大学の西岡伸紀氏らに、「防犯能力」概念や、子どもに対する「防犯能力の測定」に関する研究成果についてヒアリングを実施した。

・昨年度アンケート調査からの自由意見分類／比較／構造化による概念整理

KJ法による整理…2010年3月実施の立命館小学校での防犯演劇WSの際に収集した、保護者に対するアンケートの自由意見について、KJ法等によって項目を分類し、「防犯」に関する概念の抽出と構造化等を整理した。

・コミュニケーションティーチャーへのヒアリング

概念モデルと現場の方々の実感にズレがないかどうか、《現場の方々には内在されているプロセスについてのモデル（理論）》を探る目的で、半構造化されたグループインタビューを実施。ヒアリング内容をベースにしたテキストデータについて、ASPECTの、研究員／ディレクター／心理学を専門とする研究者らによって分類および整理した。

測定する概念についての操作的定義（ワーディング）の検討

作成した概念図で選定した項目について、ワーディングの検討を行った。答えやすいかどうか？回答がある程度分布するか（スケールや質問文のニュアンスが適切か）、対象者への測定が可能かどうか。測りたい概念を測れているかどうか等の視点で数回にわたって検討を繰り返し、最終的な質問文を作成。（別途添付）

2010年度立命館小学校での防犯演劇ワークショップ後に、アンケート調査を実施

2011年3月7日（月）防犯演劇WS最終日（発表会終了後）に実施。

児童…防犯演劇WS終了後、教室にて実施。
保護者…自宅にて回答後、学校で回収。

調査内容

子ども

- ・ 基本属性（性別）
- ・ リスク認知（当事者意識／対人リスク）
- ・ 防犯への態度（主張性、逃げることへの態度、一人にならない、チーム力の実感）
- ・ 家族とのコミュニケーション（普段のコミュニケーション、防犯演劇ワークショップのこと）
- ・ 防犯に関する基本となる知識や理論（安全／危険な場所の認識、具体的対処行動の知識）
- ・ 予防行動（一人にならない、スキを見せない）

保護者

- ・ 子どもの基本属性（性別、学年、通学形態）
- ・ 親の基本属性（性別、年齢）
- ・ リクス認知（保護者への当事者意識、対処可能だという知識）
- ・ 防犯への態度（親の自覚、地域の力の実感、地域防犯へのコミットメント、地域のまとまり、地域防犯への参加意欲）
- ・ 家庭での教育意識（家庭での防犯教育の必要性）
- ・ 家族とのコミュニケーション
- ・ 防犯に関する知識（防犯の手口についての知識、安全な場所の知識、具体的対処行動についての知識）
- ・ 家庭での防犯への取組み（防犯に関する装備、防犯に関する知識、防犯についてのコミュニケーション、場面想定／シミュレーション）
- ・ 防犯演劇ワークショップへの親の関与
- ・ 発表会への参加
- ・ 防犯演劇ワークショップの総合的評価
- ・ 防犯演劇ワークショップの個別的評価、防犯演劇ワークショップ後の変化

「こまばアゴラ劇場 演劇ワークショップ・ファシリテーター養成講座」の実施

目的

- ・ 参加する演劇人が、オリジナルのワークショップ・プログラムを開発、実践するための知識、経験を得る。
- ・ 先行して実施している「防犯WS」の現場に参加し、防犯CTとしての心構えや基礎知識を身につける。

参加人数＝35名

（内訳）公募による一般参加者＝17名、アゴラ劇場並びに青年団員参加者＝18名

期間・・・2010年4月25日～2011年5月末（2011年度は形を変えて継続する予定）

1) 前期：2010年4月～7月 基礎講座（全5回）

第一線で活躍する演劇人・WSコーディネーターの方々を講師にお招きし、実際にWSの一部を参加者に受講してもらうと同時に、WSの多様性と社会性について参加者内で考察・対話を重ねた。

○第1回 5月5日 @こまばアゴラ劇場5F稽古場

講師：平田オリザ

主なテーマ＝「教育や社会に接する演劇WSの心構え」

○第2回 5月22日 @アトリエ春風舎

講師：山内健司（青年団）

主なテーマ＝「アウトリーチと、アーティスト自身の説明責任」

○第3回 6月5日 @筑波大学附属駒場中学・高校内 50周年記念館

講師：柴幸男（ままごと／青年団演出部）

主なテーマ＝「オリジナリティと、演劇WSの条件」

○第4回 6月26日 @にしすがも創造舎

講師：倉迫康史（Ort-d.d）、上ノ空はなび（to R mansion）

主なテーマ＝「表現の核と、異分野とのコラボレーションについて」

○第5回 7月11日 @筑波大附属駒場中学・高校内 50周年記念館

講師：吉野さつき（ワークショップコーディネーター）、柏木陽（演劇百貨店）

主なテーマ＝「ファシリテーターとは何か」「社会の中での演劇WSの役割」

2) 丸の内キッズフェスタ2010) 8月17日～19日

東京国際フォーラムにて行われるキッズフェスタにて、平田オリザによる演劇WS、あんぜんパワーアップセミナー、カッコよく逃げるワザを用いた創作型WS「かわせ！逆転！キキイッパツ！」の3つのプログラムを実施した。

ファシリテーター養成講座参加者は、当日各会場のサポートに入り、防犯演劇WSがどのようなものなのかを理解する体験となった。

3) 後期：2010年9月～2011年5月 実践講座

○オリジナルプログラム作成

個々の自主性にあわせてどのような演劇WSプログラムを作りたいかをプレゼン・共有し、「グループ／個人」でプロジェクトを立ち上げた（＝以下、母体と表記）。残り期間のスケジュールを参照しながら母体ごとに予定を組み、以下のような段階を順次実施しながら、プログラム作成を進めた。

○プログラム作りのためのマッチング・パーティー

9月20日 @筑波大附属駒場中学・高校 50周年記念館

○進捗報告のためのミーティング

10月20日、12月4日 @こまばアゴラ劇場5階稽古場

○代行マスター制”によるWS実施

12月～2011年2月上旬

○プログラムの【ねらい／目的】を捉え直す会議

2月11日 @こまばアゴラ劇場5階稽古場

○各母体によるトライアル（お試しワークショップ）

2月～4月上旬

平成22年度末時点にて、8～10の母体がプログラム作成を実施しており、この1年間の成果発表として、2011年5月に3111アーツ千代田にて、最終成果発表会を予定している。

4) ファシリテーション実践演習) 月に1回程度実施

WSの導入などで使うシアターゲームを、テーマごとに実践する。参加者各人がリーダー役となってファシリテーションのポイントを整理したり、ゲームを利用する目的を検証するためのディスカッションなどを行う。

例：「いす」を使ったゲーム／声や言葉を使うゲーム／異分野とのコラボ 等

5) 講師によるワークショップ実施) 不定期に実施

浦弘毅（山の手事情社）、林成彦（青年団演出部）、武田信彦（安全インストラクター）各氏によるワークショップの実践。

防犯演劇WSコンテンツ開発・研究

平成21年度から引き続き既に社会実験が行われているプログラムは、【ファシリテーターの人数／参加者の規模／実施する場所／実施先との事前打ち合わせと事後振り返りの方法】など、将来の幅広い社会実装に向けた検証を行った。

また学校や地域の要請に合わせた新しいプログラムを作成し、各地で実施した。

1) あんぜんパワーアップセミナー（平成21年度からの継続）

平成21年度に開発したプログラム。基本的に小学校1～4年生を主な対象としているが、実施依頼のある現場によって、【参加者の規模／子どものみ参加または親子参加／実施する場所の広さ／実施する時間】などが異なるため、細かな実施内容や参加するCTの数を都度フレキシブルに変更しながら、WSのクオリティを保ち、参加者にとって有意義な体験となるための必要事項の検証などを行った。

2010/04/24	千葉県白井市福祉センター	対象：親子約30名
2010/07/03	杉並区立沓掛小学校	PTA主催イベント 対象：親子約40名
2010/07/05	伊丹市子育て支援事業ママ&キッズ☆チャレンジクラブ	対象：親子約50名
2010/07/20	西東京市北原児童館	対象：子ども約70名 ※NHK首都圏ネットワークで放映
2010/07/21	杉並区立久我山小学校（PTA主催学年行事）	対象：子ども約50名
2010/09/23	枝光本町商店街アイアンシアター（劇団衛星ほか）	対象：親子約30名
2010/10/09	世田谷パブリックシアター土曜劇場プレイパーク	対象：約20名
2010/11/04	西東京市多文化共生センター	対象：外国籍の子ども約20名
2010/11/06	杉並区立桃井第五小学校PTA	対象：親子約50名
2011/01/22	杉並区立沓掛小学校・土曜教室	対象：児童46名、保護者+教員23名
2011/01/27	信州大学教育学部・生活科学教育	対象：大学生約20名
2011/01/30	福島県いわきおやこ劇場（アリオスホール）	対象：親子41名
2011/02/11	小平市立小平八小・安全管理講習	対象：大人のみ30名

2011/02/11 杉並区立第九小学校 対象：全校生徒+親+先生150×2回、計約300名
2011/02/24 中野区上鷺宮地域センター 対象：大人約20名

また、2010年8月17日～19日には丸の内キッズフェスタ2010にて計5回の「あんぜんパワーアップセミナー」を実施した。防犯CT育成グループだけでなく、WSコンテンツ開発・研究グループなど平田PJの他チームも参加し、プログラムの有効性を検証した。

2010/08/17 丸の内キッズフェスタ2010（東京国際フォーラム） 約60名
2010/08/18 丸の内キッズフェスタ2010（東京国際フォーラム） 約120名
2010/08/19 丸の内キッズフェスタ2010（東京国際フォーラム） 約80名

2) 「カッコよく逃げるワザ」を使ったドラマ創作『かわせ！逆転！キキイッパツ！』

あんぜんパワーアップセミナーは、「予防」と「対処」が大切であることを演劇的なゲームを通じて体験してもらおうプログラムだが、実際に自分の安全が侵されそうになったときに必要な、より高度なコミュニケーション術と「対処」方法を体験できるプログラムを作成した。小学校高学年から高校生、大人にいたる幅広い層で実施が可能。パワーアップセミナーよりも演劇の場面創作の比重が高くなっている。

護身術を「カッコよく逃げるワザ」として捉え、相手を痛め付けるためではなく、決定的な危機を回避するために使うものと意識付けをし、コミュニケーションこそが最も効果的で大切な安全の“武器”であることを考えてもらう。このWSを通じて、【想像力や感性など“目にみえない”効果】と【具体的な技を覚え、日常生活のコミュニケーションに流用することができる“目にみえる”成果】を両立することができ、演劇WSコンテンツとしては非常に画期的なものとなっている。

2010/07/16 山形県米沢市南原小学校 対象：1～2年生 約60名
2010/07/17、23 海城中学・高校 対象：演劇部を中心に 約25名
2010/07/26 筑波大学附属駒場中学 対象：演劇部を中心に約10名
2010/08/17～19 丸の内キッズフェスタ2010 対象：子ども 約20名
2010/10/09 世田谷パブリックシアター土曜劇場プレイ・パーク 対象：約20名
2011/02/24 中野区上鷺宮地域センター 対象：大人約20名

3) 演劇の手法を用いた対話型パトローラー研修プログラム

長野中央警察の依頼により、『長野中央少年警察ボランティア協会後期研修』で実施ができるWSを作成した。2011年1月20日に長野市生涯学習センターにて行われた。対象：地元で活躍されている青少年パトローラー、約100名（内、大多数が60歳以上）。

【プログラムの目的】

・各グループは異なる地区から参加しているメンバーで構成されており、演じられる場面から考えられる問題点についてグループ内での対話をする中で、同じパトロールでもアプローチの仕方や具体的な対応などが地区によって異なることを理解する。

・異なる様々な考え方から共有が可能な点を探って意見の「すりあわせ」をすることで、その地域・環境だからこそ考えられる特色や、絶対に外せないポイントなどを整理する。

【プログラムの流れ】

プロの俳優2名がパトロールのある場面を実演。→場面での対応の問題点や課題を、各グループで話し合う。→ファシリテーターが司会となり、俳優もその“役”のまま議論に加わって、全体でポイントを共有。→整理されたポイントを踏まえて、俳優がもう一度場面を演じる。→「何がどうよくなったか」「さらに気をつけるべきポイントは何か」をグループ内で対話。→共有→実践。

4. 街型安全プログラム 「セイフティ・ハロウィン」

中野区若宮児童館より依頼を受け、2010年10月20日に実施した。中野区若宮小学校の児童を中心としたイベントで、当日は子ども約85名、大人約40名が参加した。

【プログラムの目的】

- ・子どもたちと大人と一緒に地域を歩き、危険な場所や「子ども110番の家」の場所を確認する。助けを求める実践を通して、子どもたちと「110番の家」の双方が、いざという時のための備えとする。
- ・子どもの安全について地域にアピールし、地域の見守りネットワークが広がるきっかけとする。
- ・子どもたちや地域の防犯力を高めるきっかけとする。
- ・ポイントのシミュレーションと練習を繰り返すことで、子どもたちと地域の人たちが、いざというときにスムーズに対応できるようになるための経験を積む。

【プログラムの流れ】

仮装した状態で子どもたちと大人が集まり、ファッションショーを実施。→地図やミッションカードなど「冒険に必要なアイテム」を配布、ミッションカードの内容を各グループごとに確認し、練習する。→グループごとに決められたルートに出発。→各ルートごとに5～6箇所の「子ども110番の家」を訪問し、ミッションを遂行。→成功すればお菓子をゲット。→旅中の「お題」を調査。→体育館に戻ってきたグループから「報告内容」をまとめる。→全体で共有と振り返り。

- ・イベント終了後に、PTAとともに振り返りを実施。

地域防犯・安全の演劇WS展開モデル作成の為にプチ・タウンミーティング実施

2010年度、政策化・実装グループがメインとなり、地域の実践家との直接対話の場として「プチ・タウンミーティング」を展開した。

4回にわたるタウンミーティングでは、開催場所ごとに内容が検討され、その地のキーパーソンに応じて実装化レベルを想定し、既に取り組みされている演劇WSを通じた子どもの安全のための地域防犯活動がどのように定着し、他地域への示唆を与えられるか、文化的背景に着目して、その特性を析出していくことに努めた。

■ 第1回 「社会的実装とは？」

日時：7月22日

会場：浄土宗應典院

内容：劇場から地域へ。なぜ劇場ではなく地域で演劇がなされるのかについて検討した。演劇WSにおける主体間の役割分担内容をまとめることができた。

■ 第2回 「コミュニティーの力とは？」

日時：11月30日

場所：枚方市立樟葉西小学校 図書室

内容：7年前に校長への脅迫電話をきっかけにPTAが中心に地域防犯活動に取り組んでいる事例から、コミュニティ協議会の協力を得た地域から行政への政策実装化について取り上げた。

■ 第3回 「自治のルールとは？」

日時：12月26日

場所：宇治中央公民館

内容：議会基本条例の制定に積極的な市議会議員を話題提供者に招き開催した。地方自治法に定められた基本構想と個別計画の関係を手がかりに、単発の事業から施策へと展開する上で必要とされる手続きについて整理することができた。

■ 第4回 「リーダーの役割とは？」

日時：3月7日

場所：奈良市富雄地区

内容：2004年11月17日に新聞配達員によって7歳女兒が殺害された事件を契機に、地域ぐるみで集団登下校を企画・実施してきた奈良市の富雄地区で非公開にて実施した。自治連合会の会長による「反省と悔し涙が活動のエネルギー」という言葉は、リーダーによる政策化への深く、重く、堅い決意を見て取ることができた。

一連の対話から明らかになったのは記憶の「風化」に抗いつつ、一部で風化の「ための」実践がなされていることであった。「当該の出来事の意味が人々のコミュニケーションを通して一定の方向へと収束し、共有され、定着していく過程」が風化であり、「単なる忘却の過程ではない」とする指摘だ。すなわち本研究においては、演劇WSはまさにこの「風化」の過程を地域で促進する実践として捉えていくこととする。

(3) 研究開発結果・成果

◆ 昨年までの進捗

「演劇WS」は、本プロジェクトのコアでありながら、研究チームメンバーのほとんどにとって「未知なるもの」であった。初年度に当たる昨年度は、社会実験を通じて、主に研究メンバーと協力者達と、「演劇WS」の知見を共有する事が半年間のミッションであり、これは概ね達成できた。これを前提に、次項より「PDCAサイクル」のフェーズに絡めながら、研究開発結果・成果を明らかにしていく。

◆Pフェーズとして

今年度は、前出のような「グループメンバーの演劇WSへの理解」が大きく増したことを前提に研究計画を立てた。概して「舞台芸術（演劇）の効用を抽出して社会実装する、という複雑系科学の領域にチャレンジしている以上、各グループの活動がなるべく複雑に影響し合う形で、研究計画を遂行する」といコンセプトであったように振り返る事ができる（計画提出当時は、そのように言語化はできていなかった）。

◆Dフェーズとして

このフェーズとしては、演劇WSの社会実験、CT養成講座の実施、評価のための調査、プチャウンミーティングが挙げられる（いずれも、実施方法・実施内容の項目に詳述）。いずれも、プランの段階で意識されたように、各グループが「なるべくその場の時間を共有する」事に心がけ、その場その場で生まれた様々な気付きや発見、工夫を各メンバーが暗黙知として共有することができた。

◆Cフェーズとして

平常の各グループによる研究会にも、他グループから積極的に参加し、「複雑系の知見」が生まれるよう工夫しているが、11/11（阪大）と、3/28（應典院）については、各グループからの発表形式の統括研究会を行い、暗黙知的な情報共有を形式知化する作業を行った。

また、11月には評価グループより「防犯演劇ワークショップによる教育効果の概念モデルのプロトタイプ(2011年3月現在の基本的な枠組み)」(別添)が成果として出されたが、これが本プロジェクトの、評価・検証の基礎として位置づけられている。

◆Aフェーズとして

藤田プロジェクトの「Eラーニング教材」を活用できるよう、連携の打診を行っている。また、地域を挙げて防犯コミュニティ作りを続けている奈良市富雄地区との連携の話が、奈良市の仲介により、まとまっている。

これまでの社会実験は、研究メンバーが確保しているフィールドで行って来たが、次年度からさらに外のフィールドでも社会実験が行えるよう、ネットワークを着実に拡大している。「行政が仲介する顔の見えるネットワークの拡大」は、重大な成果と位置づけている。

(4) 会議等の活動

(1) 会議等の活動

「統括グループ」

年月日	名称	場所	概要
2010/4/15	統括ミーティング	大阪大学 平田研究室	各グループの昨年度の進捗報告及び、今年度の実施計画の共有と検討
2010/11/11	統括ミーティング	大阪大学 会議室	各グループの今年度の進捗及び今後の進め方の検討

2011/3/28	統括ミーティング	應典院	今年度の各グループの進捗及び成果の報告と今後の進め方の検討
-----------	----------	-----	-------------------------------

「CT育成グループ」

年月日	名称	場所	概要
10/4/4	防犯CTグループM	アゴラ劇場	年度頭の活動方針確認
10/4/6	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座参加者の選抜
10/4/24	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座オリエンテーションにむけた準備
10/5/6	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座の講師との打ち合わせ
10/5/25	キッズフェスタM	東京国際フォーラムガラス棟	キッズフェスタ2010の出展に関して、主催者との打ち合わせ
10/6/2	養成講座M	新宿	養成講座の講師との打ち合わせ
10/6/10	WSコンテンツM	目白・うさぎママのパトロール教室事務所	6月中に実施するWSの内容打ち合わせ
10/6/13	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座の講師との打ち合わせ
10/7/8	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座の講師との打ち合わせ
10/7/13	WSコンテンツM	目白・うさぎママのパトロール教室事務所	7月中に実施するWSの内容・人員配置についての打ち合わせ
10/7/28	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座後期のスケジュール、内容、進め方についての打ち合わせ
10/7/29	キッズフェスタM	東京国際フォーラムガラス棟	会場下見と内容の最終確認
10/9/8	WSコンテンツM	杉並区桃井第五小学校	会場下見と内容についての主催者打ち合わせ
10/9/17	WSコンテンツM	中野区若宮児童館	会場下見と内容についての主催者/P T A打ち合わせ
10/9/18	養成講座M	アゴラ劇場	9月中の養成講座の内容打ち合わせと、今後のスケジュール確認
10/10/1	WSコンテンツM	中野区若宮地区	セイフティ・ハロウインのルート確認と準備についての打ち合わせ

10/10/10 ~11	JST領域合宿	東中野	JST全PJの報告等
10/11/2	WSコンテンツ M	目白・うさぎ ママのパト ロール教室事務 所	11月中のWSに関する情報収集、 内容決定、スケジュールの確認等
10/12/4	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座参加者による進捗状況の 報告と課題、今後のスケジュール の確認等
10/12/15	WSコンテンツ M	アゴラ劇場	12月中のWSの内容確認
11/1/16	WSコンテンツ M	アゴラ劇場	長野用の新しいWSコンテンツの すり合わせ、内容・スケジュール 確認等
11/2/9	養成講座M	アゴラ劇場	今後の養成講座の進行についての 確認と意見交換
11/2/11	養成講座M	アゴラ劇場	養成講座参加者による、各WSの ねらいと目的をはっきりとさせる ための打ち合わせ
11/2/23	WSコンテンツ M	三軒茶屋・キ ャロットタワ ー内	世田谷パブリックシアターでのプ ロジェクト打ち合わせ、実施する WSの内容確認等
11/3/10	WSコンテンツ M	代々木上原	翌年度実施予定のWSにおけるプ ログラム内容の確認と意見交換

「WSコンテンツグループ」

5/10	サイバー犯罪コ ンテンツM	KAIKA	サイバー犯罪WS実施にむけた小 学校との打合せ
8/24	コンテンツM	KAIKA	北九州での社会実験実施にむけて のコンテンツミーティング
8/27	コンテンツM	KAIKA	北九州での社会実験実施にむけて のコンテンツミーティング
9/21	コンテンツM	NPO法人フリ ンジシアター プロジェクト 事務所	北九州での社会実験実施にむけて のコンテンツミーティング
11/15	映像コンテンツ M	KAIKA	映像コンテンツ内容作成のミーテ ィングを行った。
11/25	コンテンツM	KAIKA	岡山市での社会実験向けのミーテ ィングを行った。
1/14	コンテンツ研究	大阪大学	ゲスト（柏木氏）を迎えて研究会

	会		を実施した。
1/17~18	コンテンツミーティング	KAIKA	立命館小学校社会実験向けのコンテンツMを実施。
2/27	コンテンツ研究会	KAIKA	ゲスト(柏木氏)を迎えて研究会を実施した。
3/4	コンテンツ研究会	KAIKA	ゲスト(伽羅氏)を迎えての研究会

「政策化・実装グループ」

年月日	名称	場所	概要
2010年5月26日	政策実装Gミーティング	同志社大学	2010年の具体的な実施内容の打ち合わせを実施
7月	プチタウンミーティング第一回	浄土宗應典院	第一回目は「社会実装とは？」をテーマ開催した。
11月30日	プチタウンミーティングin枚方	樟葉西小学校	PTA、コミュニティ関係者をメインに「コミュニティのちから」テーマに開催した。
12月26日	プチタウンミーティングin宇治	宇治市中央公民館	宇治市議会議員をゲストに「自治のルールとは？」をテーマに開催
3月7日	プチタウンミーティングin奈良	奈良市富雄公民館元町分館	「リーダーの役割」をテーマに、た奈良市の富雄地区で非公開にて実施。
3月28日	プチタウンミーティングin大阪	浄土宗應典院	プチタウンミーティング2010年の統括

「webコンテンツグループ」

年月日	名称	場所	概要
8月26日	HIF学会打合せ	大阪大学豊中キャンパス	2010年フューマンインタフェース学会に向けての打合せ。
10/21	WebコンテンツM	大阪大学吹田キャンパス	Webコンテンツグループミーティング
11/15	WebコンテンツM	AKIKAN	Webコンテンツグループミーティング
11/17	WebコンテンツM	大阪大学豊中キャンパス	第7回安全な暮らしのための情報技術研究会向け打合せ
1/12	WebコンテンツM	AKIKAN	Facebook利用の際のコンテンツM
1/15	WebコンテンツM	AKIKAN	Facebook利用の際のコンテンツM

1/21	Webコンテンツ M	AKIKAN	Facebook利用の際のコンテンツ M
2/3	Webコンテンツ M	AKIKAN	Facebook利用の際のコンテンツ M
2/22	Webコンテンツ M	AKIKAN	Facebook利用の際マニュアル作 成ミーティング
3/17	Webコンテンツ M	AKIKAN	22年度振り返りM

「社会実験・評価グループ」

年月日	名称	場所	概要
2010/5/28	大阪教育大学:藤田 大輔氏	JAEオフィス内	先行知見についてのヒアリン グ
2010/6/2	兵庫教育大学:西岡 伸紀氏へのヒアリン グ	JAEオフィス内	先行知見についてのヒアリン グ
2010/12/15	演劇ワークショップ 講師へのヒアリン グ	KAIKA	防犯演劇ワークショップのね らいや効果のある学習的要素 を探る目的で、半構造化され たグループインタビューを実 施
2011/1/6	ヒアリング内容の コンテンツ開発フ ィード場チームへ のフィードバック	大阪大学 平田研究室	作成した概念図を基に、測定 可能な範囲の検討と演劇ワー クショップの内容についての 最終調整

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

平成22年度は「防犯CT育成」と「防犯演劇WSコンテンツ開発・研究」を同時並行して展開してきたが、23年度についてはそれらのある程度一本化して、養成講座参加者が防犯演劇WSの現場で活躍するための環境設定、育成プログラムを実施する。またコンテンツ開発の部分にも新たに育成されつつあるCTに入ってきてもらい、より学校や地域の現場の多様なニーズに応えるようなフレキシブルなプログラム作りを進めていく。また、防犯CT育成グループで作成したWSコンテンツ受講者を対象とした社会実験・評価グループとの連携も模索していく。

平成23年度の予定は以下の通り。

- こまばアゴラ劇場ファシリテーター養成講座 成果発表会 (仮・正式タイトル未定)
 5月3日、4日、8日、22日、29日 (いずれも土日休日)
 3331 Arts Chiyoda (アーツ千代田) にて実施 (エイブル・アート・ジャパンの協力による)
- 安全WS、シンポジウムを含む「10」のプログラムを実施予定。公募、参加費無料。

■世田谷パブリックシアターとの協力体制

「土曜劇場プレイパーク」でのWS実施 (4/9、5/14、6/11)

パブリックシアター所属のファシリテーターに向けた育成プログラムの中に、安全/防犯演劇WSの知見を組み込む計画もあり

■小平市

小平第十三小学校 (5/19、26) / 小平第一中学校 (6月中) でのセーフティスクール (安全教室) 実施 (実施校数がもう少し増える可能性もあり)

■中野区

中野区立西中野小学校 (6月中) でのセーフティスクール実施 (実施学校がもう少し増える可能性もあり)

■その他の地域

- ・ 可見市文化創造センター「多文化共生プロジェクト」の中でのあんぜんワークショップ実施 (4/17)
- ・ 信州大学教育学部 (長野市) 教員養成課程でのWS実施?

5. 研究開発実施体制

「統括グループ」

- ① 平田オリザ (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 教授)
- ② 実施内容: 研究グループマネジメント

「防犯CT育成グループ」

- ① 平田オリザ (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 教授)
- ② 実施項目: 防犯CTの育成/防犯演劇WSコンテンツ開発・研究

「WSコンテンツ開発・研究グループ」

- ① 蓮行 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師)
- ② 実施項目: リアル犯罪/サイバー犯罪 演劇WSコンテンツ研究/開発/社会実験

「社会実験・評価グループ」

- ① 坂田充 (NPO法人JAE)
 - ② 効果測定モデル作成/社会実験にてアンケート調査実施
- 効果測定のための、防犯演劇ワークショップによる教育効果の概念モデルを作成/京都の社会実験にて、概念モデルを元に設計したアンケート調査実施。

「webコンテンツ開発グループ」

- ① 伊藤京子 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター/基礎工学研究科助教)
- ② 実施内容: WSコンテンツと連動させたwebコンテンツを開発する。

「政策化実装グループ」

①山口洋典（同志社大学大学院総合政策科学研究科）実施項目：

③ 実施内容：枚方市 宇治市 大阪市 奈良市にてプチタウンミーティングを行い、実装化の為に地域との協力体制の構築や、ニーズ、地域の特徴などを吸い上げる。

施策モデルの中間生産物として、ラウンドトーク、演劇WSを収録したものをDVD化し、地方自治体へ配布する。

6. 研究開発実施者

統括グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
平田 オリザ	ヒラタ オリザ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	教授	本研究の統括
蓮行	レンギョウ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	特任講師	本研究の統括
紙本 明子	カミモト アキコ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	特任研究員	本研究の統括

防犯CT育成グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
平田オリザ	ヒラタ オリザ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	教授	CT育成コンテンツの研究
田野邦彦	タノ クニヒコ	有限会社アゴラ企画	研究補助員	CT育成コンテンツの研究
わたなべなおこ	ワタナベナオコ	あなざーわーくす	研究補助員	CTコンテンツ研究アシスタント
佐藤誠		有限会社アゴラ企画	アルバイト	CTコンテンツ研究アシスタント
武田信彦	タケダノブヒコ	うさぎママのパトロール教室	主宰	コンテンツ監修
門脇 俊輔	カドワキ シュンスケ	NPO法人フリンジシアタープロジェクト	フェロー	CT育成プログラム実施 (西日本担当)

防犯WSコンテンツ開発グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目

蓮行	レンギョウ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	特任講師	WSコンテンツ開発、研究
小林健司	コバヤシケンジ	NPO法人JAE	教育クリエイター	WSコンテンツ開発、研究
門脇俊輔	カドワキシユンスケ	NPO法人フリンジシアタープロジェクト	フェロー	WSコンテンツ開発 プロジェクトマネジメント
糸井登	イトイススム	立命館小学校	教諭	WSコンテンツ開発、研究
長谷川昭	ハセガワアキラ	立命館小学校	主幹	WSコンテンツ開発、研究
吉川裕子	ヨシカワユウコ	立命館小学校	教諭	WSコンテンツ開発、研究
末岡妙子	スエオカタエコ	枚方市立樟葉西小学校 PTA副会長	副会長	WSコンテンツ開発、研究
中山芳一	ナカヤマヨシカズ	岡山県学童保育連絡協議会	副会長	WSコンテンツ開発、研究
神屋晶子	カミヤショウコ	NPO法人フリンジシアタープロジェクト	ワークショップデザイナー	WSコンテンツ開発 スケジュール管理
阪本麻紀	サカモトマキ	NPO法人フリンジシアタープロジェクト	ワークショップデザイナー	WSコンテンツ開発 プロジェクトマネジメント補佐
谷井桂輔	タニイケイスケ	NPO法人フリンジシアタープロジェクト	アルバイト	研究補佐
武田信彦	タケダノブヒコ	うさぎママのパトロール教室	主宰	コンテンツ監修
黒木陽子	クロキョウコ	劇団衛星	WS講師 (CT)	WSコンテンツ開発、ファシリテーター

社会実験・評価グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
坂野充	バンノミツル	NPO法人JAE	教育クリエイター	社会実験の為のコーディネイト
小林健司	コバヤシケンジ	NPO法人JAE	教育クリエイター	社会実験の為のコーディネイト、報告書作成
木ノ下智恵子	キノシタチエコ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	特任准教授	
長谷川 昭	ハセガワアキラ	立命館小学校	主幹	
吉川裕子	ヨシカワユウコ	立命館小学校	教諭	
糸井登	イトイススム	立命館小学校	教諭	
末岡妙子	スエオカタエコ	枚方市立樟葉西小学校	副会長	

		PTA副会長		
中山芳一	ナカヤマヨシカズ	NPO法人日本放課後児童指導員協会	副会長	
小林健司	コバヤシケンジ	NPO法人JAE	教育クリエイター	

政策化・実装グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
山口洋典	ヤマグチヒロノリ	同志社大学大学院総合政策科学研究科	准教授	施策推進を図るための調査、ヒアリング
蓮行	レンギョウ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	特任講師	施策推進を図るための調査、ヒアリング
表美由紀	オモテミユキ	財団法人京都ユースサービス協会	ユースワーカー	
木ノ下智恵子	キノシタチエコ	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター	特任准教授	
竹川勉	タケガワツトム	お客さまサービス事業部 企画課	課長	
森啓子	モリケイコ	日本財団	総務グループ ファンドレイジング チーム担当リーダー	
大橋敦史	オオハシアツシ	NPO法人フリンジシアター プロジェクト	プロデューサー	研究補佐
村山晴香	ムラヤマハルカ	NPO法人フリンジシアター プロジェクト	コーディネイター	研究補佐

発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2/20~3/5	演劇で学ぼう！防犯編 暴犯団から身を守れ！in 枚方	枚方市	29名	プロの俳優と枚方市に住む小学生で、4日のWSで防犯をテーマに啓発劇を創作、上演を行った。／独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金

7-3. 論文発表 (国内誌 2 件、国際誌 _____ 件)

- ・ 蓮行／伊藤京子／紙本明子
「防犯教育におけるインタフェースとしての演劇ワークショップ」
- ・ human Interface2010 BIWAKO 別刷り2010年9月7日

- ・ 蓮行
「犯罪からの子どもの安全特集子どもの安全を守るインタフェース・演劇で防犯?!」
- ・ ヒューマンインタフェース学会誌 Vol.13 NO2 2011

7-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

学会名：ヒューマンインタフェース学会

子どもの教育のための「演劇ワークショップ」～その開発、効果、展開、評価に向けた検討～

場所：リンクスクエア (立命館大学 びわこ くさつキャンパス)

日付：2010年9月7日

発表者：山口洋典 (同志社大学大学院総合政策科学研究科)

タイトル 犯罪からの子どもの安全平田プロジェクト 政策化実装グループ

「地域ネットワーク構築を通じた政策実装化」

学会名：画像電子学会 第7回 安全な暮らしのための情報技術研究会

場所：大阪大学豊中キャンパス オレンジショップ

日付：2011年3月11日

発表者：山口洋典 (同志社大学大学院総合政策科学研究科)

タイトル：地域コミュニティ政策における防犯演劇WSの実装化プロセス

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

「あんぜんパワーアップセミナー」にて、第4回キッズデザイン賞2010フューチャーアクション部門優秀賞